

経済・金融 フラッシュ

英国GDP(2020年4-6月期) —▲20%超の急落だが、所得維持政策の効果も

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: ▲20%超の急落

8月12日、英国国家統計局(ONS)はGDPの一次速報値(first quarterly estimate)および月次GDPを公表し、結果は以下の通りとなった。

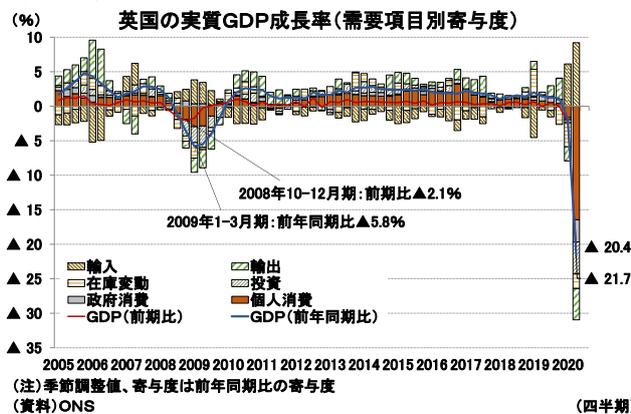
【2020年4-6月期実質GDP、季節調整値】

- ・前期比は▲20.4%、予想¹(▲20.7%)より上振れ、前期(▲2.2%)から低下した(図表1・2)
- ・前年同月比は▲21.7%、予想(▲22.3%)より上振れ、前期(▲1.7%)から低下した

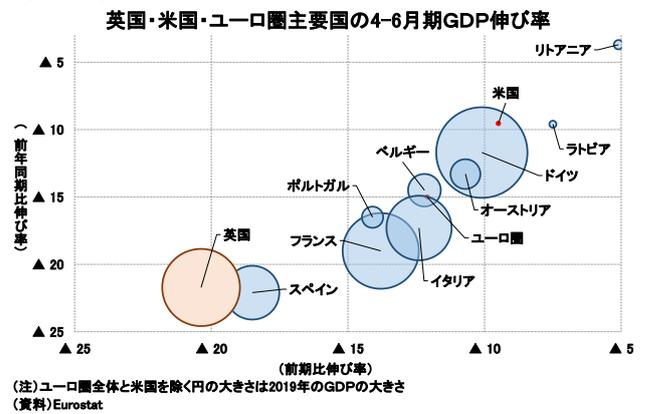
【月次実質GDP(4-6月)】

- ・前月比は4月▲20.0%、5月+2.4%、6月+8.7%となり、4月を底に2か月連続で加速した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細: 雇用者報酬は政策効果で微減にとどまる

英国の4-6月期成長率は、新型コロナの影響を受け1-3月期の前期比▲2.2%から大幅に悪化し、前期比▲20.4% (年率換算▲59.8%) となった。英国は他の欧州各国と比較してロックダウン(都市封鎖)の措置が遅かった²こともあって、ユーロ圏で大きく落ち込んだスペイン(4-6月期: 前期比▲18.5%) よりも下落幅が大きくなった。1-3月期分の下落も加味される前年同期比の伸び率で見ると英国は▲21.7%となり、スペインの▲22.1%は若干上回るものの、それ以外の欧州各国と比べ落ち込み幅は大きい(図表2)。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想も同様。

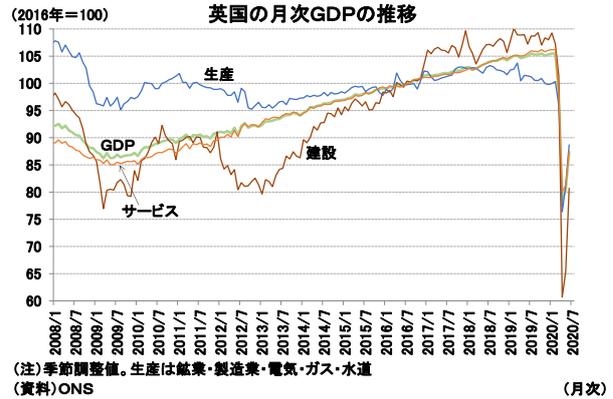
² 英国で外出禁止要請が出されたのが3月23日。一方、他国と比較して解除も遅く、6月末時点で閉鎖されている業種・地域もある。

次に月次GDPで単月でのデータの動きを追うと、4月が底であり5月以降は改善が見られるものの、回復力は弱いことが分かる（図表3）。

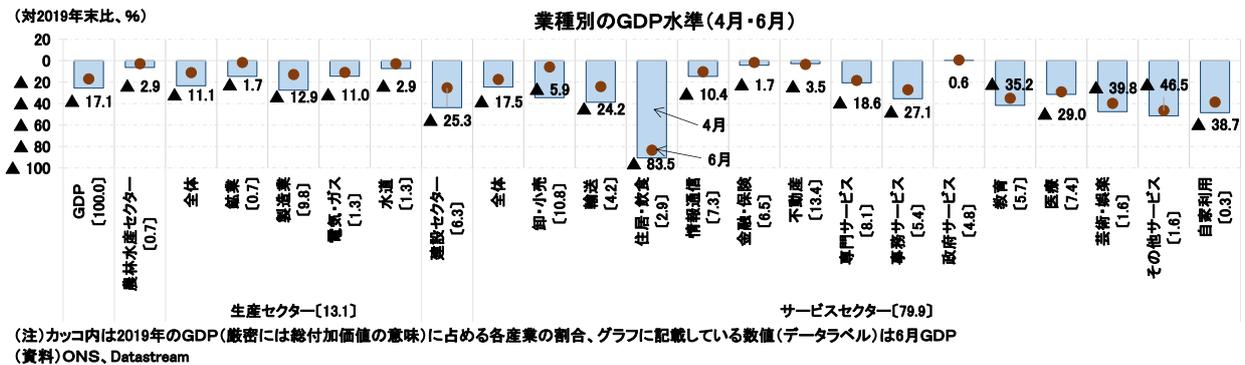
最も月次GDPが落ち込んだ4月、および直近の6月の水準を2019年末と比較すると（図表4）、すべての主要セクター（農林水産・生産・建設・サービス）が4月に大幅マイナスとなり6月時点での回復も弱い（図表3でも見た通り）。

細かい産業分類で見ても、6月時点で政府サービスを除くすべての産業が昨年末対比でマイナスの水準にある。特に、サービス産業のうち、住居・飲食、その他サービス、芸術・娯楽、教育といった産業は、活動水準が3割～8割以上低い状態だったことが分かる。なお、成長への寄与で見ると、シェアの大きい製造業、卸・小売業、医療の低迷が成長減速へ及ぼした影響も大きい。

（図表3）



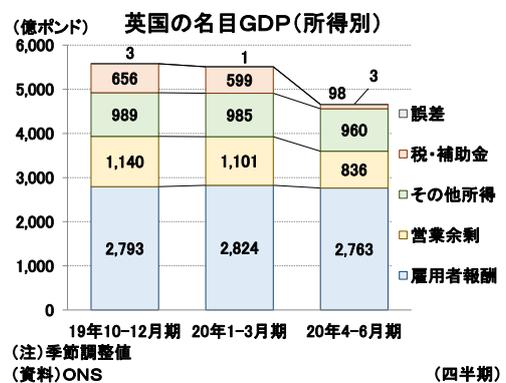
（図表4）



成長率の内訳を需要項目別に確認すると、4-6月期では、個人消費が前期比▲23.1%（前期▲2.9%）、政府支出が▲14.0%（前期▲4.1%）、投資が▲25.5%（前期▲1.1%）、輸出が▲11.3%（前期▲13.5%）、輸入が▲23.4%（前期▲9.4%）と主要項目がすべてマイナスとなり、特に個人消費と投資の弱さが目立つ。なお、在庫等は前期比寄与度で▲10.78%ポイント（前期は+1.32ポイント）、純輸出は同+3.59%（前期は▲1.47%ポイント）だった（前掲図表1）。

最後に名目GDPを所得別に確認すると、4-6月期は前期比▲15.4%（前期：▲1.2%）となった。雇用維持制度（CJRS）、自営業者所得支援制度（SEISS）といった所得・雇用維持政策と付加価値税（VAT）などの税収減により税・補助金が前期比▲83.7%（前期：▲8.7%）と大幅に減少したため、雇用者報酬は前期比▲2.2%（前期：+1.1%）と微減に留まっており、雇用者全体の所得水準は、GDPの減少と比較して相当程度維持されていることが分かる（図表5）³。

（図表5）



³ GDPの下落幅からみると微減だが、歴史的には55年以降で金融危機時の2008年4-6月期の落ち込み（▲2.5%）に次ぐ悪化。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。